

## 研究ノート

### 暦と韓国<sup>1</sup>

崔吉城

人間は自然の変化や生物の成長を見て時間を認識する。たとえば花や紅葉などをみて季節感を持つようなものである。その感じ方によって社会が組み立てられて、文化・社会的なリズムとして認識されている。近代以来は標準時の設定、特に鉄道によって定時や定刻の時間観念が普及した。以降交通システムがより複雑化し、厳密な時刻運営が必要とされ、時計の普及、労働時間が設定されるようになった。

国家は時間を管理する。その象徴的なものは標準時や暦である。大韓帝国は 1908 年 東経 127 度 30 分を標準時と制定したが、1912 年日本の標準時である東経 135 度に変え、以前より 30 分速くなった。1954 年 3 月 21 日から再び東経 127 度に変え 30 分早い時間に換元した。しかし 1961 年日本の標準時に変更して今に至っている。これに関しては植民地遺産とか米軍作戦上の理由のために変更したとも言われている。2000 年に国会議員 20 余名が韓国の標準時に復帰させる法律を上程したが政府は混乱と不便を招くという理由で復帰達成はできなかった。

元号は中国漢代に君主国家の元首が治世年次をつけるところから由来したものであり、周辺国家の朝鮮、日本、ベトナムなどが使ったものである。韓国では新羅時代から李朝末期までは中国の年号を使わなければならなかった。大韓帝国になって建陽（高宗 1896-1897）、光武（高宗 1897-1907）、隆熙（純宗 1907-1910）を使い、日本の植民地になって日本の年号を使うようになり<sup>2</sup>、紀元節・天長節のたびに小学校に住民が参列させられた。戦後韓国では李承晩大統領の誕生日（3 月 26 日）が記念されたが、北朝鮮では金日成（4 月 15 日）・金正日の誕生日は戦前の天長節のように記念されている。

戦前の紀元節に似ているものが開天節である。日本植民地時代に上海の大

韓民国臨時政府は旧暦 10 月 3 日を慶祝日とした。解放後韓国ではこれを継承して開天節を国慶日として正式に制定した。それは檀君神話に基づいた韓国の建国記念日である。檀君が紀元前 2333 年に即位して檀君朝鮮を建国したことを記念し、天に感謝する日とされている。韓国では 1948 年を「檀紀」4281 年とし、1961 年（檀紀 4294 年）朴正熙が年号廃止の法令を制定し、1962 年 1 月 1 日から使用禁止となった。この開天節は日本の紀元節（建国記念日）の入れ替えのようなものである。

北朝鮮は金日成主席逝去から 3 年目の 1997 年 7 月 8 日、党・政府の共同決定書を通じて「主体年号」を制定し、金日成主席が生誕した 1912 年を元年として「主体（チュチュエ）年号」を使用している。2009 年は「主体 98 年」である。このような君主の誕生日や死亡によって国家の年号が決まっている。

かつて、高宗は陰暦から陽暦へ変えることを決定し、1896 年 1 月 1 日をもってグレゴリオ暦を採用し、元旦とした<sup>3</sup>。しかし年の始まりを 1 月 1 日にしても太陰暦の一月一日のソル名節を変えることは難しかった。太陽暦が新暦になっても民俗や慣習を変えることはなかなかできず、太陽暦を施行しても忌日、誕生日、択日（行事などの日を選び決める）はすべて陰暦（時憲暦）をそのまま踏襲した。つまり新旧暦を混用したのである。特に忌日、誕生日、択日はすべて陰暦（時憲暦）をそのまま踏襲した。長い歴史に刻まれている慣習を変えることはできなかったのである。

陰暦から陽暦化の過程で、正月の過ごし方に A 旧正型、B 新正型、C 二重過歳型、D 無過歳型の四つの方法があった。A は従来から慣習として守るものであり、また旧正を守りたい人が戻ったものである。B は開化思想に賛同した人か、守らなければならない立場にいる人である。C は公的には新正、私事としては旧正を守る型である。D は煩わしさを避けるために、新正には旧正を守るかのようにし、旧正には新正を守るかのように表現してどちらもしない型である。初期には二重過歳は非合理的で経済的な損失が大きいという社会的な批判もあったりしたが、それが定着していくようであった。

新暦は日本、西洋を象徴するものであり、反西欧、反日的なナショナリズムが強められて「日本の正月、倭ソル」という。日本では西暦と日本の年号

を組み合わせたのと同様である。それぞれ西洋化とナショナリズムを反映している。旧正月は中国式の陰暦によって新年の始まりの元旦を意味するものであり、古くは日本をはじめ中国の影響によって正月とされてきた。

韓国人にとって日本をはじめ世界的に広く祝う 1 月 1 日の正月はただカレンダー上の年始であり、名節という実感が薄い。先にも触れたように日本は明治以来西洋の陽暦に変えてきた。いわば日韓合併以前の朝鮮王朝も 1896 年にそれを採用し始めた。その後日本植民地政策によって引き継がれていた。しかし朝鮮民族はその政策に抵抗して新正を日本の正月「倭ソル」だといい、旧正を「朝鮮ソル」「我が正月」といいながら守り続けた。

戦後韓国では李承晩大統領も新正をまもる政府政策を一貫して実行した。人によって旧正を守ることが愛国者のように主張したが、朴大統領は旧正が旧来の因習に過ぎないということで、新正の政策を守ってきた。そこで両方とも守るかどちらか一つを守るようになり、新正優先の「二重過歳」現象が起きた。

全斗煥大統領は旧正も名節休日として旧正中心の「二重過歳」を制度化し、新暦はカレンダー、旧暦は名節などの組み合わせになっている。新正は日本植民地政策によって始まったように誤解されているが、それは事実ではない。ただ日本の政策が強制的であったことが抵抗を招いたのではないと思われる。したがって正月の民俗も陰暦に密着していて、戦後も陽暦政策は変りなく引き続いた。新正と旧正の「二重過歳」（陽暦と新暦のお正月の両方を名節にする）<sup>4</sup>の風潮が流行った。また、前者は公休日であったが後者はそうではなかったので、公務員は祖先祭祀に参加できないことが多くなり、前者は「公務員のソル」といわれ、公務員が多い家や門中（親族集団）では祖先祭祀を新正に変える傾向もあった。

韓国政府は一九八六年の旧正を「民俗の日」とし、一九八八年にはソル（正月）として復帰させた。つまり民衆が守ってきた民俗を公的に認めて公休日にしたのである。これは百年余の新正の文化と歴史を否定して新正から旧正へ戻したわけで、大きな特徴があると思われる。旧正月を「我が正月」として、祝う。韓国だけではなく、広く中国文化圏、ベトナム、モンゴルなどにおいては最大の名節として旧正月を祝っている。

中国では旧正月には帰省者が 2 億人近いという。韓国でも 2 千万の民族が大移動すると言われる。旧正は植民地時代においても日本人の新正に対し、韓国人が「我が朝鮮の正月」として守り続けてきたものであり、誇りとも言える。あるいは反日・反西洋的な傾向が高まったので、それを政治的に吸収したともいえる。旧正月へ戻ることへの否定的な見方もあったが、それは無視されたようである。

公休日の中には四大国慶日がある。韓国憲法では第 1 条、国家の慶事の日を記念するために国慶日を定める。第 2 条、国慶日は、次のとおりである。三・一節 3 月 1 日、制憲節 7 月 17 日、光復節 8 月 15 日、開天節 10 月 3 日となっている。四つの国慶日のうち二つが日本植民地と関わるものである。三・一節は 1919 年に日本に反抗し独立万歳運動を起こした日を記念している。8 月 15 日は日本の終戦記念日である韓国の解放記念日の、「光復節」は日本の敗戦によって韓国が解放された記念日である。

法定公休日は日曜日、国慶日、名節、釈迦誕生日、クリスマスと選挙日など臨時公休日がある。軍国主義的な国軍の日と顕忠日、キリスト教の記念日のクリスマス、仏教の釈迦誕生日が設定されている。北朝鮮では国家的に制定した名節は「偉大な首領金日成同志の誕生日」「親愛なる指導者金正日同志の誕生日」、国慶節、党創建記念日、祖国解放記念日、憲法節、五・一節、ソル名節（旧正月）などである。

大雑把にいつて陽暦による行政的な行事を年中行事という。韓国で年中行事とは聖なる日の名節とは違って世俗的な、主に国家や社会が国家理念や政治的意図をもって新暦で設定したものを指す。しかしそれは全く新しく制定されたものではあっても多くは伝統的な名節、戦前植民地からの負の遺産、外国文化などの影響によって作られる。ここで名節を除いて独立後の大韓民国の年中行事をみると反植民地的ナショナリズムによるものが多い。戦後独立国家となった韓国ではその枠をそのままにしながら韓国のものに入れ替えたのである。

以上を考察すると三つにまとめられる。第一に暦は国家のナショナリズムと関係が深いといえる。日本、台湾、北朝鮮は元号を使っており、天皇や主席などの誕生日や即位などに基づいて元号を使っている。韓国は元号を使わ

ず、年中行事には反日的なナショナリズムが強く表れている。

次に日本は陰暦をほぼ完全に陽暦化した。端午（陰暦の五月五日）や七夕（陰暦の七月七日）などを陽暦に換算して切り替えたのではなく、日にちだけを、つまり数字だけを陽暦に移した。特に小正月（一月十五日）と中秋夜（八月十五）の満月の意味も無視して陽暦の8月15日にした。しかし韓国はカレンダー上中国文化圏に戻っている。

最後に名節や冠婚葬祭の世俗化によって、国家のイデオロギーは希釈化されていく。ナショナリズムなどの理念を持っている年中行事も「休日」「連休」とされていく。現在日本においても一般の人々には休日、特に連休がいわゆるゴールデンウィークとしてしか認識されていない。

## 註

<sup>1</sup> 本稿は2009年11月21日、山口大学会館（吉田キャンパス）で山口大学時間研究所主催の「時間学国際シンポジウム～東アジアの暦と近代化」で「韓国における聖なる時間の世俗化」という題で発表し、討論したものに基づいて作成したものである。

<sup>2</sup> 王名と年号を暗記するのが受験勉強の主要な項目であった。

<sup>3</sup> 日本は明治6年1873年に太陽暦を採用したので、それより23年後のことである。

<sup>4</sup> ‘正月は必ず陽暦一回のみとすること’ ‘朝鮮人農家においては正月旬日の長きに亘り休業する弊習あるに付之を五日以内に短縮し勤労奨励に資すること’ 『総動員』1-7、1939：94